規範倫理学における公理について

田原裕基

2019 年 8 月 28 日

概要

I wrote about the idea that absolute ethical laws could be found in an axiomatic way in normative ethics, and wrote a self-objection and an improvement against it. Before it, I wrote reviews about the concept of axiom and the major ideas of normative ethics.

1　序論

私は高校 1 年生のときに、自然数について調べてみて、公理という概念を知った。また、イスラム教徒として、中学生の頃から、神が与えた i.e. 絶対的なものとして、物理と同じように倫理についても法則があるという信条を持っており、それを数学的、科学的に解明したいという願望を持っていた。そのため私は公理の概念を知ったとき、倫理法則を公理として記述し、自明な演繹規則にのっとっていかなる状況、議論にも耐えうるような科学的 (とは言いがたいが) な倫理学を見つけたいと考えた。しかしその後高校で物理や化学、生物などを学んでいく内に、数学と物理の一部を除いては、公理的方法は厳密な意味においては用いられるべきでないというように考えるようになった。ただし、絶対的な倫理法則が存在するという信条は変わらず持っており、現在は倫理法則を、道徳的事象に一般的に当てはまる (近似的な) 定理として記述できるのではないかと考えている。今回、夏期休暇の課題として人文社会科学系の論文作成が課されたので、これについて論じようと思う。

まず、数学と倫理学という、高校生の進路選択において正反対の位置にあるであろう 2 つの学問を同時に論じるために、それぞれに対して簡単な総評を行い、その後に過去の自説を展開し、最後にそれに反論しようと思う。

なお、論文や書籍などの検索には、Google Scholar を用いた。

2　公理とその精密科学における役割についての簡単な総評

公理とは数理論理学における推論の前提又は出発点であり、古典的には自明な又はよく確立された基礎的な真の命題のことである [1]。公理の概念が明確に記述された文書のうちで現存する最も古いものは、Euclid の『原論』(1) であると考えられており [2]、近現代においては、Whitehead と Russell による『プリンキピア・マテマティカ』(2)[4] や Bourbaki による『数学原論』(3)[5] などがある [3]。現代における有名な公理としては公理的集合論の ZFC 公理系 (4)[7] や自然数論の Peano の公理 (5)[8] などが挙げられると思う。

公理の概念は物理学の一部においても物理学的要請という名で使われている [6][9]。物理学における公理的方法による研究のうちで特に注口されるものは、古いところでは熱力学や相対性理論に対する Carathéodory[10][11] のものや相対性理論に対する Reichenbach[12] のものであると言われ [6]、新しくは

1960 年前後から発展してきた数理論理学の成果に強く影響されたもの、例えば Suppes[13] や Bunge[14] などの仕事がそれであると言われる [6]。また、近年では科学の理論の基礎約な部分における諸問題を論ずるのに物理学の一部でとられている公理的方法の検討が大いに参考となるということが言われている [6]。

一般に、数学では何らかについて論ずる際、(Riemann の『与えられた数より小さい素数の個数について』(6)[15] などのように新しい数学を創る (帰納する) 場合を除いて [16]、) いくつかの公理 $A_1, A_2, \cdots, A_n$ を仮定し、それを組み合わせて様々な定理 $T_1, T_2, T_3, \cdots$ を演繹する [9]。前述の通りこの方法は記録上 Euclid の『原論』のが最初だと言われている [2]。

一方物理学などでは何らかの法則導き出す際、(Boyle-Charles の法則の導出 [17] などのように知られている法則から新しい法則を導き出す (演繹する) 場合を除いて、) 実験及び観察から得られたナマの事実 [18][19][20][21](定理)$T_1, T_2, T_3, \cdots$ から要請される法則 (公理)$A_1, A_2, \cdots, A_n$ を帰納する [16]。この方法は記録上 Al Haytham の『光学の書』(7) のが最初だと言われている [22]。

そこにおいては、数学と異なり、公理が前提となっていない i.e. 正しくないかもしれないという問題が起こるが [16]、常識的には、ある一つの公理系において、そのなかの公理、またはそれから導かれる定理が経験 (または実験) と比較されて、検証 (または反証) されたなら, それらの公理は正しい (またはその公理系は正しくない) と考えられている [6] 。なお、この際公理の意味することと実験結果とを比較するためには何らかの意味の規則、例えば理論的語彙と観測的語彙との間の対応規則などが必要であるとするのが一般的である [6] 。そして必ずしも個々の公理それ自身がすべて単独でこの様な検証 (または反証) 可能である必要はないと考えられている [6]。

以上のように数学や物理学のような厳密で絶対的な学問 [16] においては、帰納演繹どちらにおいても公理の概念が重要な地位を占めていることがわかる。

3 規範倫理学についての簡単な総評

倫理学とは、道徳的に「正しいこと」と「間違っていること」について研究する学問である [23]。特に規範倫理学とは道徳的行動を支配する一般的な理論 i.e.「正しいこと」と「間違っていること」の基準 (以下「倫理法則」) を見つけようとする学問である [23]。道徳的な「正しさ」の概念は恐らく有史以前から存在すると考えられ [24]、古代ギリシア [25]、中世サラセン [26][27]、近代ヨーロッパ [28] などで長年議論されてきたが、現代においても絶対的な倫理法則は発見されていないと考えるのが一般的である [29]。そこで、現在の主な仮説 (現状では ism であるとされる [29]。) として、Dimmock と Fisher の挙げる 3 つの説 [23] を、Al-Yabani によって個人的、主観的に最も確からしいとされている [29]Bentham の功利主義を中心に提示する。

3.1 功利主義

規範的倫理の理論として功利主義は、人々の将来の可能な行動のそれぞれが人々の効用どのように増減させるかを評価することによって、人々が何が道徳的に「正しく」て何が道徳的に「間違っている」のかを判断できるとする理論である [23]。ここでいう「効用」とは経済学の用語で、個人の主観的な幸福・欲望充足の度合いのことである [30]。功利主義は福利の理論 i.e. ある人生がその人生を生きる人にとってどれだけうまくいくかについての理論であり、功利主義と他の福利の理論とを区別しているのは、功利主義者が、成功した人生を定義するものはその人生の喜びの量に直接関係していると信じているということである [23]。

功利主義のルーツは古代ギリシアの Epicurus による快楽主義にまでさかのぼることができる [23]。

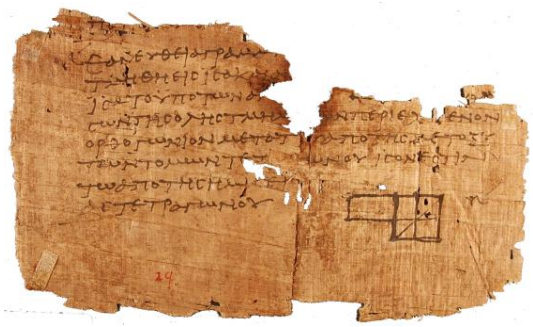
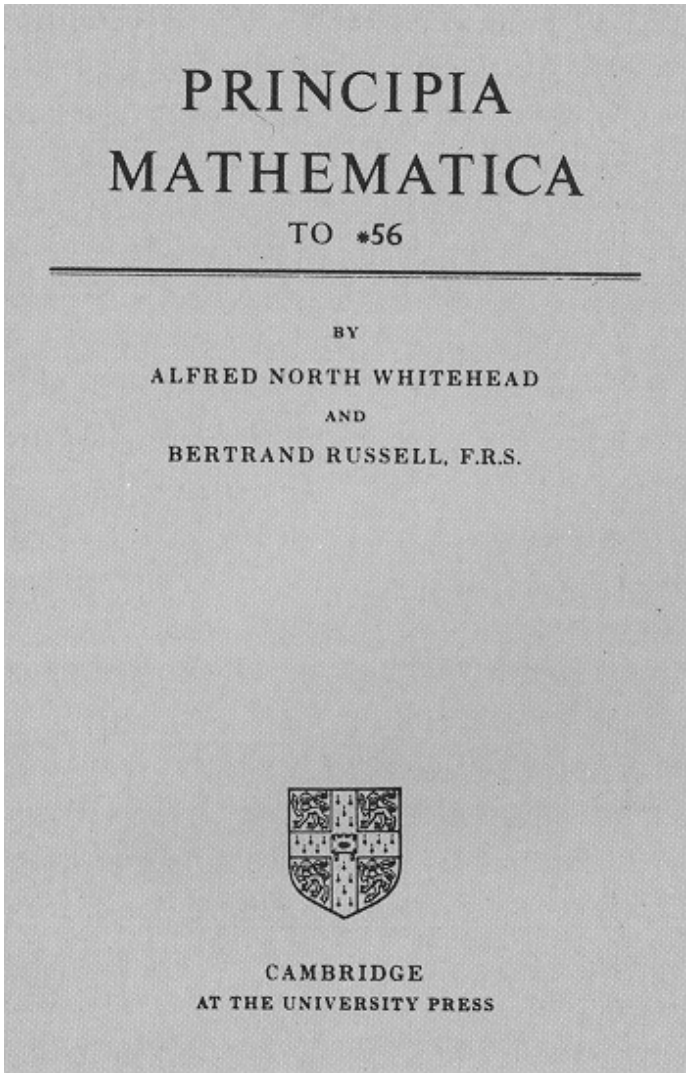


図 1　(1) エジプト中部のオクシュリュンコスで発見された『原論』のパピルスの写本断片。紀元 100 年ごろの作。図は『原論』第 2 巻の命題 5 に添えられたもの。ブリティッシュコロンビア大学 http://www.math.ubc.ca/ cass/Euclid/papyrus/papyrus.html より



PRINCIPIA
MATHEMATICA
TO *56

BY

ALFRED NORTH WHITEHEAD

AND

BERTRAND RUSSELL, F.R.S.

CAMBRIDGE
AT THE UNIVERSITY PRESS

図 2　(2) 短縮版『プリンキピア・マテマティカ 56 節まで』の表紙

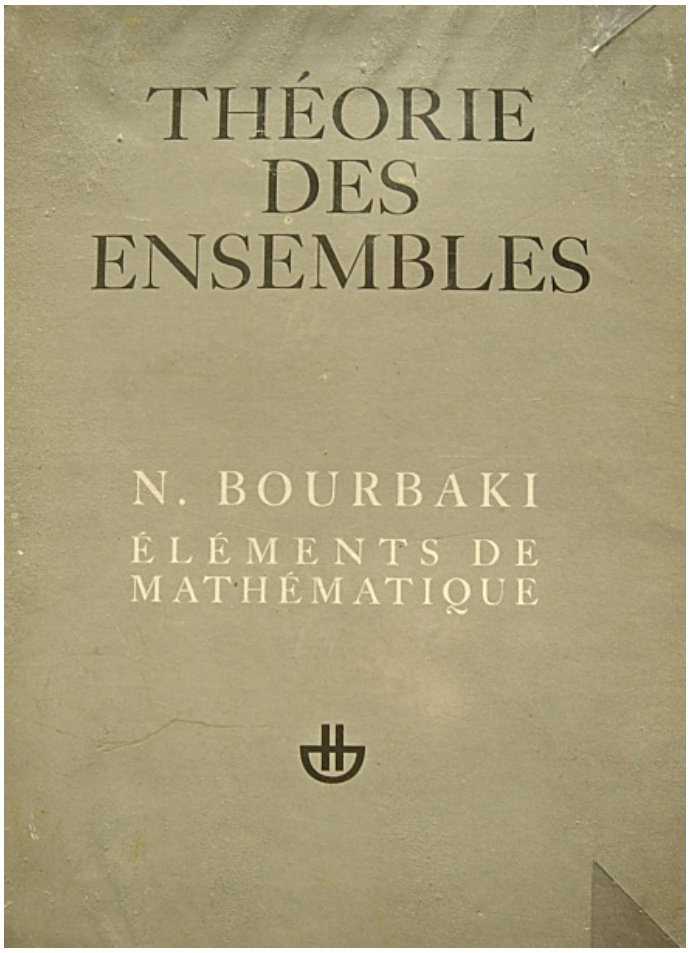


図 3　(3)『数学原論』第 1 部門「集合論」の表紙 (1970 年の版)

Epicurus は人にとっての本質的な良さとは喜びであるという見解を持っていた [23]。これは喜びが、その喜びの原因や状況にかかわらず、常に人にとってそれ自体で良いことを意味する [29]。この理論によれば、喜びは常に多ければ多いほど本質的に人にとって良いものであり、少なければ少ないほど本質的に悪いものである [23]。したがって、ある人が自分の人生で経験する喜びが大きくなればなるほど、彼らの人生はより良くなり、逆もまた同様である [23]。注意すべき点として、快楽主義における幸福の追及というのがあくまで帰結主義的であったということが言える [29]。また、公益重視ではなく利己主義的な点や幸福の量についての具体的な概念がない点などに、次に述べる Bentham の功利主義とは異なる部分がある [29]。

記録上初めて「功利主義 (Utilitarianism)」という言葉が使われたのは、Bentham の『道徳および立法の諸原理序説』(8)[31] にてである [29]。Bentham は快楽主義的な思考のタイプを基礎として功利主義の道徳理論を発展させた [23]。Bentham によると、人生の価値を決定する、あるいは実際には出来事や行動の価値を決定する唯一のものは、その人生に含まれる喜びの量、またはその出来事や行動の結果として生じる喜びの量である [23]。しかしながら、Bentham の快楽主義に対するこの信念は、Bentham がなんの正当化もせずに、あるいは恣意的に取り上げたものではなかった [23]。Bentham にとって快楽主義は、世界の中にある有利な証

外延性の公理 : $\forall A \forall B(\forall x(x \in A \leftrightarrow x \in B) \rightarrow A = B)$

空集合の公理 : $\exists A \forall x(x \notin A)$

対の公理 : $\forall x \forall y \exists A \forall t(t \in A \leftrightarrow (t = x \vee t = y))$

和集合の公理 : $\forall X \exists A \forall t(t \in A \leftrightarrow \exists x \in X(t \in x))$

無限公理 : $\exists A(\phi \in A \wedge \forall x \in A(x \cup \{x\} \in A))$ ただし、$\forall x(x \notin \phi)$

冪集合公理 : $\forall X \exists A \forall t(t \in A \leftrightarrow t \subseteq X))$

置換公理 : $\forall x \forall y \forall z((\psi(x,y) \wedge \psi(x,z)) \rightarrow y = z) \rightarrow \forall X \exists A \forall y(y \in A \leftrightarrow \exists x \in X \psi(x,y))$

正則性公理 : $\forall A(A \neq \phi \rightarrow \exists x \in A \forall t \in A(t \notin x))$ ただし、$\forall x(x \notin \phi)$

分出公理 : $\forall X \exists A \forall x(x \in A \leftrightarrow (x \in X \wedge \psi(x)))$

選択公理 : $\forall X((\phi \notin X \wedge \forall x \in X \forall y \in X(x \neq y \rightarrow x \cap y = \phi)) \rightarrow \exists A \forall x \in X \exists t(x \cap A = \{t\}))$ ただし、$\forall x(x \notin \phi)$

図 4　(4)ZFC 公理系を構成する公理の一覧 (著者作)

$1:0$ は自然数である

$2:$ 任意の自然数 a に対して、$a+$ が自然数を与えるような右作用演算 $+$ が存在する

$3:$ もし a, b を自然数とすると、$a+ = b+$ ならば $a = b$ である

$4: a+ = 0$ を満たすような自然数 a は存在しない

$5:$ 集合 s が二条件「$(i)0$ は s に含まれる, (ii) 自然数 a が s に含まれるならば

$a+$ も s に含まれる」を満たすならば、あらゆる自然数は s に含まれる。

図 5　(5)Peano の公理の 5 項目 (著者作)。ここでは最初の自然数を 0 としているが、1 とする場合もある。

拠によって経験的に正当化され得るものであった [23][31]。Bentham は以下のように述べている [31]。

自然は人類を 2 人の最高の主人、

すなわち苦痛と喜びの統治下に置いた。

私たちがするべきことを指し示し、

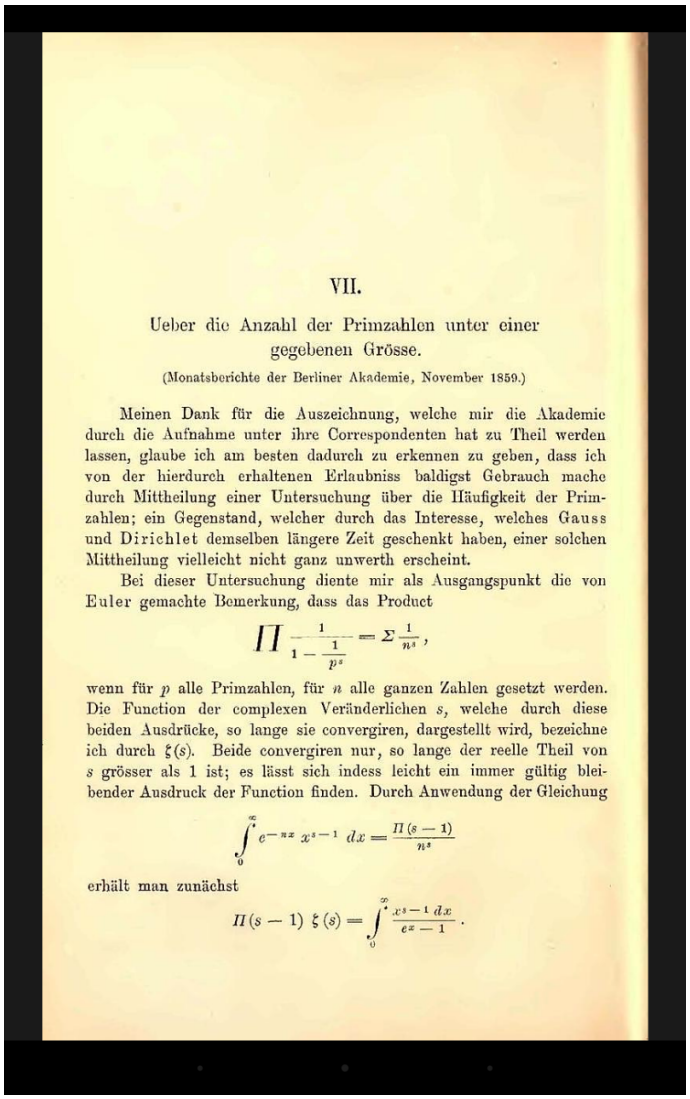
私たちがしなければならないことを決定するのは、

彼らだけである。

『道徳および立法の諸原理序説』において Bentham は、人々の行動を導く要因についてのこの経験的な主張から、人々がどのように生きるべきかについての規範的な主張 i.e. より多くの喜びとより少ない苦痛をもたらすことが「正しい」とする原理 (Bentham はこれを効用の原理と名付けた [31]) に基づく、道徳的な理論を導き出した [23]。以下に、効用の原理に関する Bentham の記述を引用する [31]。

効用の原理とは、どんなものであれあらゆる行為のことを、

利害が問題となっている当事者の幸福を



VII.

Ueber die Anzahl der Primzahlen unter einer gegebenen Grösse.

(Monatsberichte der Berliner Akademie, November 1859.)

Meinen Dank für die Auszeichnung, welche mir die Akademie durch die Aufnahme unter ihre Correspondenten hat zu Theil werden lassen, glaube ich am besten dadurch zu erkennen zu geben, dass ich von der hierdurch erhaltenen Erlaubniss baldigst Gebrauch mache durch Mittheilung einer Untersuchung über die Häufigkeit der Primzahlen; ein Gegenstand, welcher durch das Interesse, welches Gauss und Dirichlet demselben längere Zeit geschenkt haben, einer solchen Mittheilung vielleicht nicht ganz unwerth erscheint.

Bei dieser Untersuchung diente mir als Ausgangspunkt die von Euler gemachte Bemerkung, dass das Product

$$\Pi \frac{1}{1-\frac{1}{p^s}} = \Sigma \frac{1}{n^s},$$

wenn für p alle Primzahlen, für n alle ganzen Zahlen gesetzt werden. Die Function der complexen Veränderlichen s, welche durch diese beiden Ausdrücke, so lange sie convergiren, dargestellt wird, bezeichne ich durch $\zeta(s)$. Beide convergiren nur, so lange der reelle Theil von s grösser als 1 ist; es lässt sich indess leicht ein immer gültig bleibender Ausdruck der Function finden. Durch Anwendung der Gleichung

$$\int_0^\infty e^{-nx}\, x^{s-1}\, dx = \frac{\Pi(s-1)}{n^s}$$

erhält man zunächst

$$\Pi(s-1)\, \zeta(s) = \int_0^\infty \frac{x^{s-1}\, dx}{e^x - 1}.$$

図 6　(6)『ベルリン学士院月報』（1859 年 11 月号）に掲載された Riemann の論文

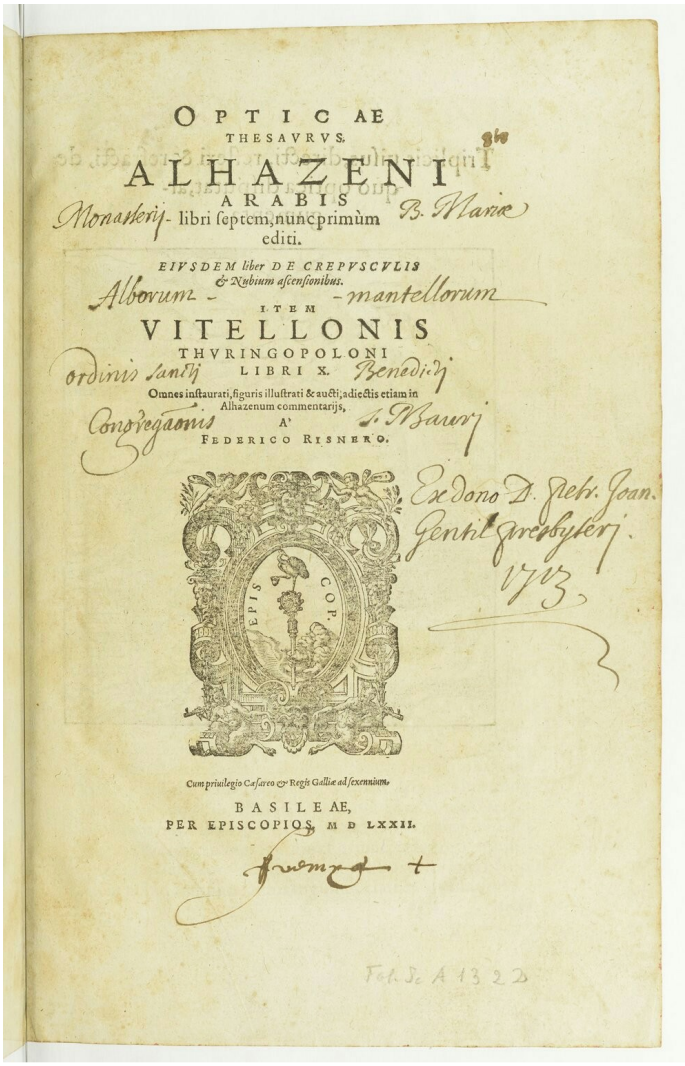
増強または減少することになるように見える傾向に従って、

あるいは同じことであるが言い換えれば、

その幸福を促進するまたは阻害するように見える傾向に従って、

承認または拒否する原理を意味する。

快楽主義への傾倒に裏打ちされた効用の原理は、Bentham によってなされた功利主義の中心的な主張を支えるものである [23]。Bentham が誤って Priestley[32] に帰した言葉によると Bentham は、「正しいこと」と「間違っていること」の尺度とはある行動が最も多くの人々に最も大きな良さをもたらす度合いのことであると示唆している [23]。Bentham にとって、何が良いとみなされるかと言えば、喜びのことであるから [31]、Bentham 自身が基本的な公理と呼ぶ効用の原理 [31] は、次のように言い換えることができる [23]。それは、



OPTICAE
THESAVRVS.
ALHAZENI
ARABIS
libri ſeptem, nunc primùm
editi.
EIVSDEM liber DE CREPVSCVLIS
& Nubium aſcenſionibus.
ITEM
VITELLONIS
THVRINGOPOLONI
LIBRI X.
Omnes inſtaurati, figuris illuſtrati & aucti, adiectis etiam in
Alhazenum commentarijs,
A'
FEDERICO RISNERO.

EPIS COP.

Cum priuilegio Cæſareo & Regis Galliæ ad ſexennium.
BASILEAE,
PER EPISCOPIOS, M D LXXII.

図 7　(7) ラテン語に翻訳された『光学の書』(1572 年) の表紙。オクラホマ大学 History of Science Collections et BnF Gallica　http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k312873d.r=Haytham?rk=407727;2 より

以下のような要件である [23]。

道徳的に行動することは、最も多くの人々に (帰結として) 最も大きな喜びをもたらすことを必要十分とする。

上で述べているように、Bentham の功利主義は Epicurus の快楽主義と同じく [29] 帰結主義的である [23]。それは、ある行動や出来事の道徳的価値はその出来事の結果によって完全に決定されるためである [23]。同じ理由から功利主義は『道徳および立法の諸原理序説』において目的論的なものとしても記述されている [23][31]。すなわち、長期的にみた際、行動 B ではなく行動 A の結果としてより多くの喜びが生じる場合、たとえ短期的に見た際に B の生み出す喜びが A のよりも多かったとしても、功利主義の基本的な公理によれば、A が行われるべきであり道徳的に「正しい」ものとされ、B を選ぶことは道徳的に「間違っている」とされる [29]。これに関して、以下に効用の原理と関連する Dimmock と Fisher による例示を引用する [23]。

たとえば、もしあなたが新しい本にお金を使うことから若干の喜びを得たとしても、

そのお金がホームレスのための地元の慈善団体に寄付されたならば、

より多くの喜びを生み出すことができたかもしれません。

その時には、新しい本を買うことがいくらかの喜びをもたらすとしても、

道徳的には間違っているでしょう。

なぜなら、その行為は、その状況で可能だった喜びの総量を最大化しなかったためです。

さらに、Bentham の功利主義は、絶対主義的ではなく相対主義的である [23]。絶対主義的な道徳観とは以下のような倫理法則を真とする考え方であると考えられる [29]。

$$\forall x, \forall t, P(x)\ ; x \in People,\ t : \mathrm{time}, P(x) \in Prescriptive\ Propositions\ for\ x$$

これに関しても、以下に Dimmock と Fisher による例示を引用する [23]。

たとえば、多くのキャンペーン団体は、拷問のことを、

人々に恐怖を抱かせようとしている悪意のある独裁者によって行われるものであろうと、

テロリストの攻撃を止めるために情報を入手しようとしている

民主的に選出された政府によって許可されたものであろうと、

常に道徳的に容認できないと示唆しています。

絶対主義者にとって、拷問の行為はすべての場合とすべての状況において絶対的に間違っています。

明らかに、ベンサムはこの種の見解を抱くことはできません。

なぜなら、拷問がテロリストの残虐行為を止める場合など、

時には拷問に伴う苦痛が全体に対するより大きな喜び

(またはより緩和された苦痛) の促進につながることがあるかもしれないからです。

これに基づいて、ベンサム的な功利主義者は、

ある種の行動が正しいか間違っているかは、

その行動がとられる状況に常に関連していると信じなければなりません。

また、Bentham の功利主義は、そこで問題となるのが単純に最も多くの数の人々にとっての最も多くの量の喜びを確保することだけであるという意味で、公平でもある [23]。この理論は、その喜びの総量に対して、誰がそれにアクセスできるかや、誰がそれを分け合うかについて特別な選好を与えていない [23][31]。Bentham の功利主義理論は、利害についての平等な配慮という考え方に関連している [23]。喜びの総量が最大化される限りにおいて、王族、社長、兄弟姉妹、子供、友人または敵のうち [31] の誰がその喜びを経験するかは問題とはならない [23]。つまり、喜びの総計の計算では、人々の地位、行動または他の社会的要因にかかわらず、人々はみな平等であると言える。

このように、Bentham にとっては、どんな行動であっても喜びを生み出すという面での結果がその行動の道徳性を決定するものであり、他の要素は一切関連していない訳であるが、現実に我々が規範として功利主義的な思考をする際、どの行動が最も幸福量を増やすかを判断するためには、幸福の量について具体的な方法論が存在する必要があると思われる。実際、Bentham は、功利主義が実際的な道徳理論となるためには、将来の行動に関連した喜びについての計算の問題に取り組む必要があることを認識していた [31]。そのため、Bentham は、異なる可能な行動によってどのくらいの喜びが生み出されるかに対して個人が答えを出すのを助けるために [23]、快楽計算 [31](時に幸福計算とも呼ばれる [23]) を提唱した [31]。 Bentham によると、快楽計算は、以下の変数 [31] に従って可能な喜びを評価することに基づいている [23]。

1. 強度
2. 期間
3. 確実性
4. 遠隔性
5. 肥沃さ
6. 純度
7. 範囲

著者の考えにおいては、後述するように、より科学的で確からしい変数設定が可能だと思うが、快楽計算は、道徳的に厄介な状況でどのように行動するかについて悩んでいる功利主義者のために、決定手続きを提供することになっていると言える [23]。

しかしながら、いくつかの可能な行動をそれらに関連する「喜びの単位」の観点から測定することが実際に妥当性があるかどうかは、まだまだ未解決の問題であり、計算の問題は単に快楽計算の存在によって必ずしも解決されるとは限らない [23]。以下に Bentham の功利主義にたいする反論として Dimmock と Fisher が挙げている問題点を提示する [23]。

まず、Bentham の功利主義は、幸福量を最大化しようとする倫理学理論であることによって [31]、人々に厳しい要求をすることから、激しい異議にさらされている [23]。喜びは単に促進される必要があるだけではなく、すべての機会において実際に最大化される必要があるとしたならば [31]、道徳的に行動するための基準は非常に高く設定されてしまう [23]。これに関して Dimmock と Fisher は以下のように述べている [23]。なお、この記述については、教科書のものであることに留意する必要がある。

あなたは今年のある時点でドーナツを買ったり、

自分のために雑誌を買ったりしましたか?

金遣いの荒い生活を送って、

目的地まで歩くのではなくタクシーに乗ったりしましたか?

あなたの行動は、確かにあなた自身とあなたの意思決定から

経済的利益を得た人々に対して異なる程度の喜びをもたらしましたが、

あなたはお金を節約し、極度の財政難に苦しむ人々や

世界中で貧困の中に暮らすような人々にそのお金を届けることによって、

より多くの喜びを生み出せるように思われます。

最大化する道徳理論である結果として功利主義は、

私たちの行動に非常に厳しい要求をするので、

不道徳を避けることを非常に難しくしているようです。

次に、Bentham の功利主義のもう 1 つの問題として、多数派の専制に関連するものがある [23]。Bentham の功利主義は相対主義的な道徳理論であるため [31]、絶対的な民主主義の権利や絶対的な法的権利、基本的人権などのような絶対的な道徳を許容しない [23]。実際、Bentham 自身は、「自然権」の考え方を、意味のあるものとして偽装された無意味な概念であるとして却下した [31]。しかしながら、もし Bentham が述べたように、絶対的権利は単に「大げさなナンセンス」[31] であるということを受け入れるならば、Bentham の功利主義は、喜びの総量を最大化するというより大きな良さのために多数派が少数派を搾取することが道徳的に必要とされるという事例を受け入れると考えられる [23]。たとえば、もし小さな国の資源が強制的に取り上げられ、はるかに大きな国の人々によって自由に使用され搾取された場合に、喜びの総量が最大化されるとすると [23](これはまったくの非現実的な事象というわけではない [23])、このような強制的な搾取 (大多数の人々が喜びを得られるという事実によってのみ正当化されたもの) は、道徳的に正当化されるようには、直観的には思えない。しかし、Bentham の功利主義の喜びを最大化するというコミットメントによれば、そのような行動は道徳的に受け入れられるだけでなく、道徳的に要求されるものとなるだろう [23]。

また、Bentham の功利主義は、帰結主義的もしくは目的論的な道徳理論として、誤った意図の問題にもさらされている [23]。この問題は、Dimmock と Fisher による以下のドミニクとコーラムのケースを考慮することにより強調することができる [23]。

ドミニクがコーヒーショップで座っていると、

1 人の顔を覆った侵入者が強盗だと叫びながら飛び込んできました。

ドミニクは人々の命を救うという意図をもって侵入者を止めようとしますが、

悲しいことに、その後の取っ組み合いで侵入者の銃が誤って発砲され、

1 人の無実の人が殺されました。

今度は、2 番目のケースを考えてみましょう。

ここでも銃を持った侵入者が飛び込んできますが、

コーラムは介入しようとするのではなく、

すぐに自分の命を救う意図をもって身をかがめ、

残りの客は自分で身を守るよう放っておきました。

コーラムにとって幸いなことに、

彼が身をかがめたときに、

コーラムは偶然にも強盗未遂犯の足をつまづかせて、

この犯人は転んで意識を失い、

警察が到着するまで平和的に拘束することができました。

帰結主義的な理論としての功利主義は、意図を無視し、結果にのみ焦点を当てている [23][31]。功利主義的な考えによると、コーラムは喜びを最大限にするように行動したが、ドミニクは誤って行動したということになる [23]。なぜなら、彼の行動の結果が悲劇的な苦痛であったからだ [23]。しかしながら、コーラムが単に自分自身を救うことを意図していた時に、幸運な結果を得たことによってコーラムは正しく行動しており、ドミニクが他人を救うことを意図していた時に、不幸な結果となったことによってドミニクは誤って行動した、と示唆する [23] のは、直観的には不公平であり間違っているように思える。

最後に、Bentham の功利主義はまた、Williams[33] によって最も顕著に枠組みづけられた、功利主義に関連する、完全性の異議からの攻撃を受けている [23]。Williams によると、行為主体に中立な理論として、潜在的な行動が家族や愛する人に及ぼす影響について判断する際に、いかなる人間も公平性を放棄することができないというものがある [23][33]。さらに、ある行動が自分自身の感情、性格、そして一般的な完全性の感覚に及ぼす影響を判断する際にも、いかなる人間も公平性を放棄することができない [23][33]。これに関連する潜在的な不安を明確にするために、Williams はジムとインディアンたちの架空のケースについて説明している [23][33]。

ジムは探検家であり、

20 人の人間を処刑しようとしている

インディアンのリーダーに出くわしました。

ジムは、彼らが犯したかもしれない犯罪のことや

その他の関連する要因については何も知りませんが、

彼は、外国人旅行者に好印象を与えようとしている

インディアンの首長から

難しい選択を与えられました。

ジムは、囚人の 1 人を彼自ら射殺して、

残りの人をお祝いのしるしとして自由にすることができます。

あるいは、彼は申し出を拒否することもできますが、

その場合には 20 人の囚人全員が計画通りに処刑されます。

ジムは、誰かと取引や交渉をすることはできず、

すべての囚人を無事に解放するために

武器を使用することもできないという意味で

状況を支配していないことに注意しておくことが重要です。

彼には目の前に置かれた 2 つの選択肢しかありません。

行為主体の中立性へのコミットメントを考えると、ジムは自分自身のことを、最も多くの人に最も多くの良さを生み出す行動を見つけ出すような中立的な観察者として扱わなくてはならない [23]。功利主義的には、彼は自分の感情に対して他人の感情に与えるよりも大きな重みを与える権利がないので [31]、ジムが平和主義者であり、その生涯を通して囚人の矯正と社会復帰を支持してきた人であろうと、それは問題とはならない [23]。すなわち、もし功利主義の計算で、彼が囚人の 1 人を射殺しなければならないと示唆された場合、彼は自身の完全性とアイデンティティーに全く関係なく撃たなければならない [23]。いくらかの人々はこのことを、ひどい状況の不幸な結果として受け入れるかもしれないが、もしある道徳的な理論が人の最も誠実で最も深い信念を認識したり尊重したりしないならば、それはその道徳的な理論にとっては批判の原因となるかもしれないと考えられる [23]。

以上のように、Bentham の功利主義については、様々な方面からの反論が存在する。

Mill は、Bentham が提唱した功利主義の理論が直面する多くの問題を懸念していたが、快楽主義者として、Bentham の理論が拒絶されるのを目にするのは望んでいなかった [23]。そのため、Mill は『功利主義論』(9)[34] において、快楽主義的な功利主義の成功したバージョンを作成するために、Bentham の功利主義理論を洗練し、改善しようとした [23]。

快楽主義を正当化するため、Mill は我々の人生をより良くする唯一のものは幸福の良さであるという主張を正当化しようとした [23]。Mill は知識、健康、自由などは (人生をより良くするかもしれないと思われるような他の良いものと同様に)、それらが幸福をもたらす限りにおいてのみ価値があると示唆することによってこの主張を擁護している [23][34]。たとえば、知識は、それを獲得したときに幸福をもたらすためだけに望ましいものであり、それ自身で孤立したものとして、人生をより良くするから望ましいのではないとしたのである [34]。

一方、Bentham の功利主義を描きなおす際、Mill のもっとも重要な考えは、問題となるのはすべての喜びの総量であるという Bentham の考え方から離れることであった [23][34]。その代わりに Mill は、何が道徳的なのかを決めるためには喜びの質もまた重要なのだと考えたのだ [23][34]。実際、Mill は以下のように述べている [34]。

満足している豚より不満足な人間であるほうが良い。

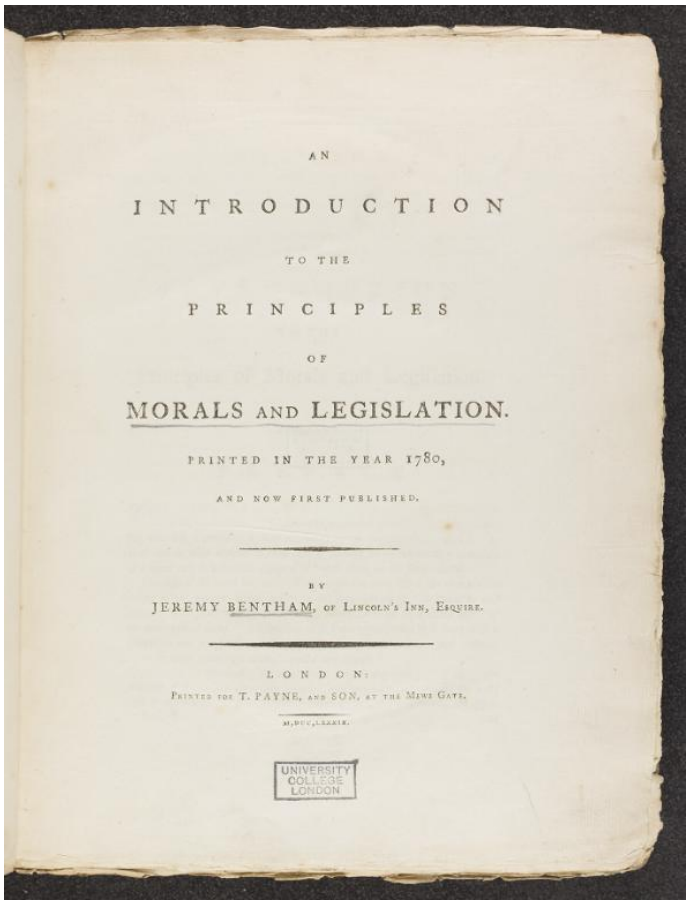
満足している愚か者よりも不満足なソクラテスであるほうが良い。

そして、愚か者や豚が異なる意見を持っているのならば、

それは単に彼らがこの質問について自分自身の側しか知らないからである。

つまり、Mill の功利主義は質的なのであると言える。それに対して Bentham のは、前述したように完全に量に依存している [23]。Bentham にとって重要なことは喜びを作り出すことであり、それが達成される方法は重要ではない [23]。もしゲーム機で遊ぶことがシェイクスピアを読むよりも多くの喜びを著者に与えるならば、Bentham は、著者がゲーム機で遊ぶことで著者の人生はよくなると考えるだろう [23]。実際、Bentham は『The Rationale of Reward』(10) において、以下のように述べている [35]。

偏見を別にすれば、プッシュピンのゲームは音楽と詩の芸術と科学と同じ価値がある



AN

INTRODUCTION

TO THE

PRINCIPLES

OF

MORALS AND LEGISLATION.

PRINTED IN THE YEAR 1780,

AND NOW FIRST PUBLISHED.

BY

JEREMY BENTHAM, OF LINCOLN'S INN, ESQUIRE.

LONDON:

PRINTED FOR T. PAYNE, AND SON, AT THE MEWS GATE.

MDCCLXXXIX.

UNIVERSITY COLLEGE LONDON

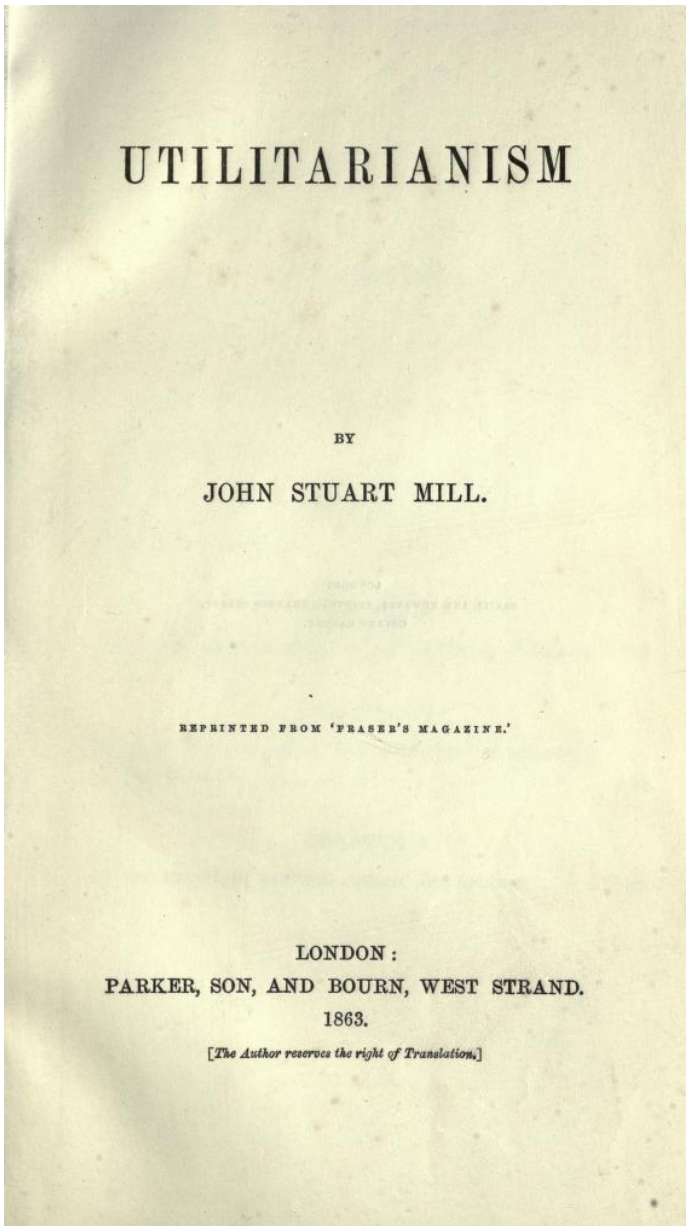
図 8　(8)『道徳および立法の諸原理序説』の表紙 ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン Digital Collections https://www.ucl.ac.uk/library/exhibitions/dangers-and-delusions-perspectives-wo/bentham-jeremy-introduction-principles-morals-and より

よって Bentham は、不幸なソクラテスが幸せな愚か者よりも価値のある人生を送るであろうことを認めることができないだろう [23]。一方 Mill は、単に量だけではなく、喜びの質もまた重要であると信じているので [34]、快楽主義的な基準によってさえもソクラテスがより良い人生を送っているという主張を擁護することができるだろう [23]。そのような意味で、Bentham の量的功利主義と Mill の質的功利主義はまったく異なるものであると言えるだろう。

Mill による質的功利主義以後も、Sidgwick[36] や Hare[37]、Singer[38] などによって、現在に至るまで功利主義的な倫理法則は探し続けられている。

3.2　義務論

義務論とは、Kant が『人倫の形而上学の基礎づけ』(11)[39] において提唱した規範倫理学の理論である [23]。Kant は、理性によって導き出される普遍的な究極の道徳規則というものの存在を提起し、それに無条件に従うことが倫理の達成であるとした [40][41]。義務論者によれば、我々が理性的な時ならば、それ自体で「正しい」ものが本当の善であり、そしてそれは' 善い意志' であることを理解し理想とする。それ自体で「正しい」ものとは、何らかの目的の為の行為ではないということである [23][40][41]。これに関して、Kant は以下のよ



UTILITARIANISM

BY

JOHN STUART MILL.

REPRINTED FROM 'FRASER'S MAGAZINE.'

LONDON:
PARKER, SON, AND BOURN, WEST STRAND.
1863.
[*The Author reserves the right of Translation.*]

図 9 (9)『功利主義論』の表紙 セント・メアリーズ・カレッジ・オブ・カリフォルニア https://archive.org/details/a592840000milluoft/page/n4 より

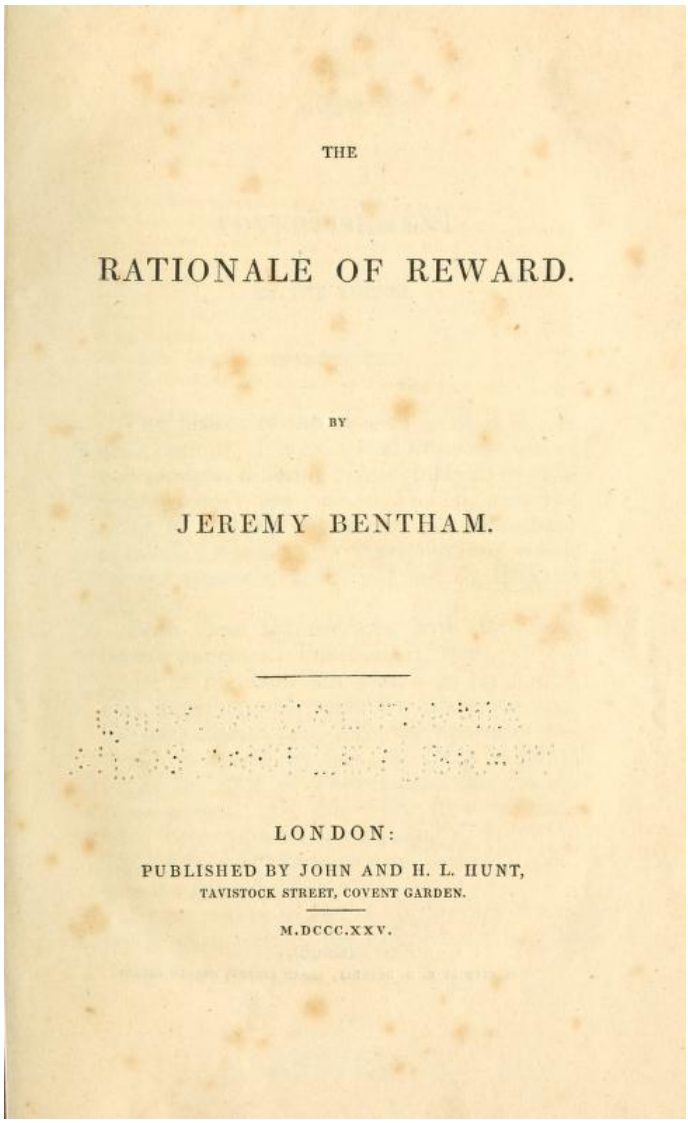
うに述べている [39]。(これは定言命法と呼ばれている。[23][41])

汝の信条が普遍的法則となることを、

その信条を通して汝が同時に意欲できる、

という信条に従ってのみ行為せよ。

この自己が意欲する規則たる信条こそが' 善い意志' であり [29]、これを Kant は格律と呼んだ [39]。



THE

RATIONALE OF REWARD.

BY

JEREMY BENTHAM.

LONDON:
PUBLISHED BY JOHN AND H. L. HUNT,
TAVISTOCK STREET, COVENT GARDEN.
M.DCCC.XXV.

図 10 (10)『The Rationale of Reward』の表紙 カリフォルニア大学図書館 https://archive.org/details/rationaleofrewar00bent より

つまり、義務論をわかりやすく言えば、自分が行為したいことが、だれが、いつ、どこで、なにを、なぜ、いかに行為しても文句なしと自分自身が意欲できる行為ならそれを道徳規則とし、その規則に従うこと、である [29]。ここで気を付けることは、あくまで自分が意欲できるから規則とすること、あくまで規則だから行為すること、規則を作る場合「〜の場合」を付けるような例外条項にせず、いかなる場合でも指令されることが妥当とすることである [29]。

功利主義との違いとして、帰結主義的でない点が挙げられる [42]。先程のドミニクとコーラムのケースにおいても義務論者は恐らくドミニクを正当化するだろうと思われる。

Grundlegung

zur

Metaphysik

der Sitten

von

Immanuel Kant.

Riga,

bey Johann Friedrich Hartknoch

1785.

図 11　(11)『人倫の形而上学の基礎づけ』の表紙

3.3　徳倫理学

徳倫理学は、行動ではなく、徳や性格などの行動主体そのものの性質を重要視する規範倫理学の考え方である [23]。そのため、行動の帰結を重要視する功利主義や行動の意志を重要視する義務論とは完全に区別される [29]。

徳倫理学の起源は、少なくとも Plato の『国家』(12) や Aristotle の『ニコマコス倫理学』(13) などにまでさかのぼることができる [43][44]。また、Ivanhoe などは、Confucius の『論語』(14) などの儒教の思想に徳倫理学の萌芽がみられると主張している [45]。

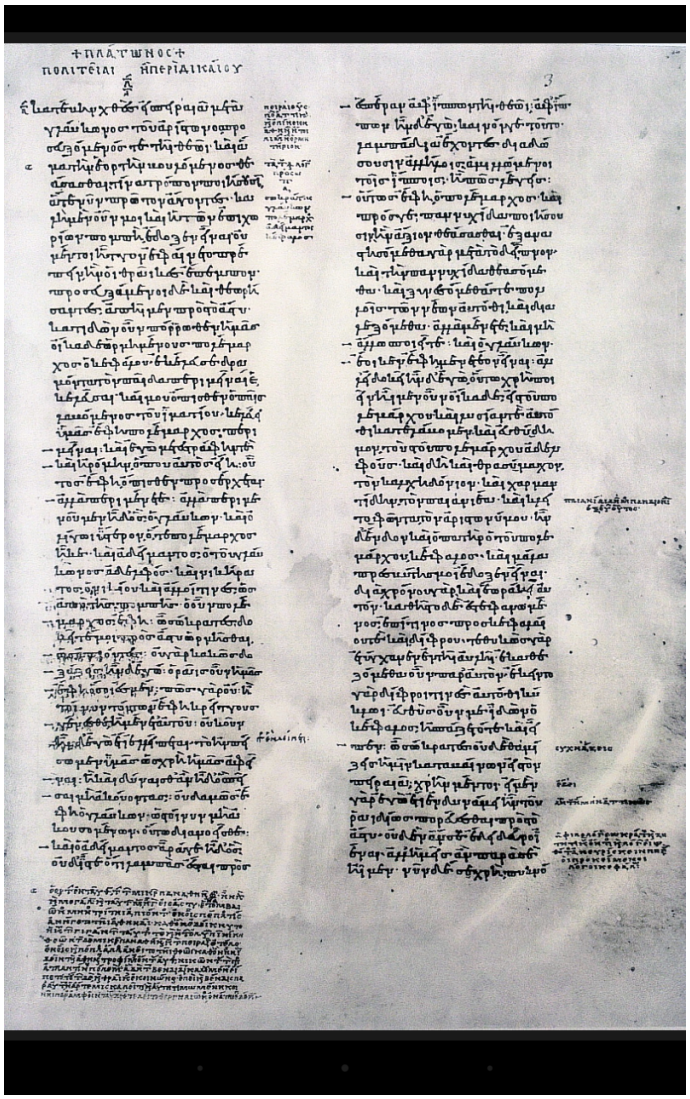
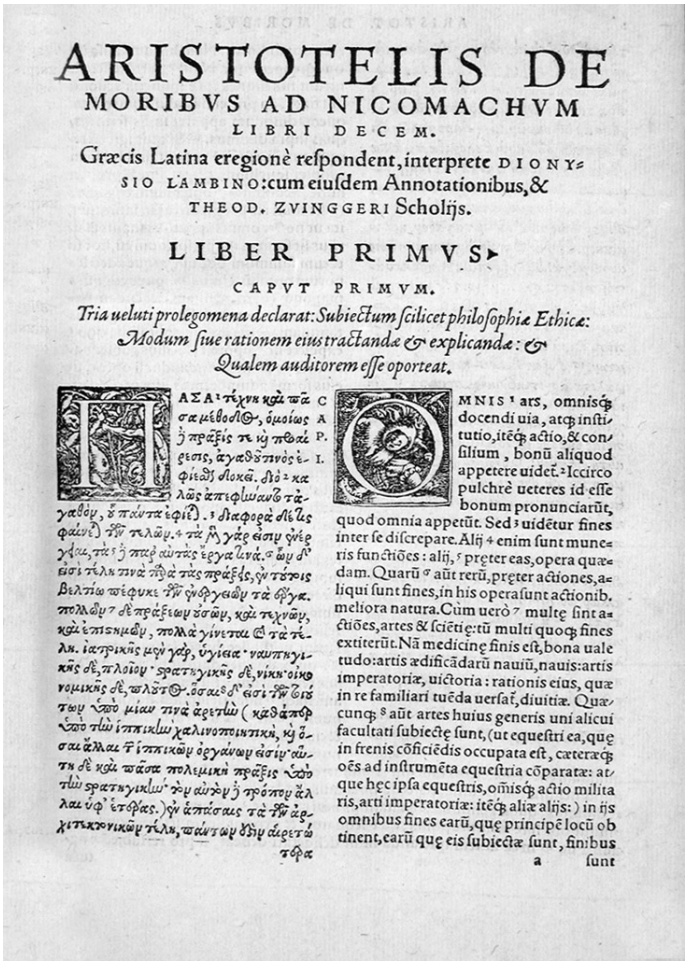


図 12　(12) フランス国立図書館に保存されていた、9 世紀後半の『国家』の原稿の最初のページ。現存する最古のもの。

以上のように現在議論されている倫理法則の仮説は定まった方向性をもたず、厳密で絶対的な倫理学とは遠く離れていると言える。

4　規範倫理学における公理的方法について

規範倫理学において公理的であると言えるものはいくつか存在する [29]。前述した Bentham の功利の原理や、Kant の定言命法などはそういったものの例であると言えるが、他にも有名なものとして、De-Spinoza の『エチカ』(15)[46] におけるが公理が挙げられる [29]。De-Spinoza は規範倫理学を、Euclid の『原論』のように、公理、定義と演繹規則のみによって構成しようとした [47]。これこそ過去に著者が求めていたものであ



ARISTOTELIS DE
MORIBVS AD NICOMACHVM
LIBRI DECEM.

Græcis Latina eregionè respondent, interprete DIONYSIO LAMBINO: cum eiusdem Annotationibus, & THEOD. ZVINGGERI Scholijs.

LIBER PRIMVS.

CAPVT PRIMVM.

Tria ueluti prolegomena declarat: Subiectum scilicet philosophiæ Ethicæ: Modum siue rationem eius tractandæ & explicandæ: & Qualem auditorem esse oporteat.

ΠΑΣΑ[1] τέχνη καὶ πᾶσα μέθοδος, ὁμοίως δὲ πρᾶξίς τε καὶ προαίρεσις, ἀγαθοῦ τινὸς ἐφίεσθαι δοκεῖ. διό[2] καλῶς ἀπεφήναντο τἀγαθόν, οὗ πάντα ἐφίεται. [3] διαφορὰ δὲ τελῶν φαίνεται τῶν πολλῶν. [4] τὰ μὲν γὰρ εἰσιν ἐνέργειαι, τὰ δ' παρ' αὐτὰς ἔργα τινά. [5] ὧν δ' εἰσὶ τέλη τινὰ παρὰ τὰς πράξεις, ἐν τούτοις βελτίω φύσει τῶν ἐνεργειῶν τὰ ἔργα. πολλῶν[7] δὲ πράξεων οὐσῶν, καὶ τεχνῶν, καὶ ἐπιστημῶν, πολλὰ γίνεται καὶ τὰ τέλη. ἰατρικῆς μὲν γὰρ, ὑγίεια· ναυπηγικῆς δὲ, πλοῖον· στρατηγικῆς δὲ, νίκη· οἰκονομικῆς δὲ, πλοῦτος. ὅσαι[8] δ' εἰσὶ τῶν τοιούτων ὑπὸ μίαν τινὰ ἀρετὴν (καθάπερ ὑπὸ τὴν ἱππικὴν χαλινοποιικὴ, καὶ ὅσαι ἄλλαι τῶν ἱππικῶν ὀργάνων εἰσὶν· αὕτη δὲ καὶ πᾶσα πολεμικὴ πράξις ὑπὸ τὴν στρατηγικὴν· ὧν αὐτὴ ἕν πρόσπολον ἄλλαι ὑφ' ἑτέρας.) ἐν ἁπάσαις τὰς τῶν ἀρχιτεκτονικῶν τέλη, πάντων ὄντων αἱρετῶν τέλα

CAP. I.

OMNIS[1] ars, omnisq; docendi uia, atq; institutio, itēq; actio, & consilium, bonũ aliquod appetere uidet. [2] Iccirco pulchrè ueteres id esse bonum pronunciarũt, quod omnia appetũt. Sed [3] uidētur fines inter se discrepare. Alij [4] enim sunt muneris functiōes: alij, [5] præter eas, opera quædam. Quarũ [6] aũt rerũ, præter actiones, aliqui sunt fines, in his operasunt actionib. meliora natura. Cùm uerò [7] multę sint actiōes, artes & sciētię: tũ multi quoq; fines extiterũt. Nã medicinę finis est, bona ualetudo: artis ædificādarũ nauiũ, nauis: artis imperatoriæ, uictoria: rationis eius, quæ in re familiari tuēda uersat, diuitiæ. Quæcunq; [8] aũt artes huius generis uni alicui facultati subiectę sunt, (ut equestri ea, quę in frenis cōficiēdis occupata est, cæteræq; oēs ad instrumēta equestria cōparatæ: atque hęc ipsa equestris, oñisq; actio militaris, arti imperatoriæ: itēq; aliæ alijs:) in ijs omnibus fines earũ, quę principē locũ obtinent, earũ quę eis subiectæ sunt, finibus

a sunt

図 13　(13) ギリシャ語とラテン語の併記された『ニコマコス倫理学』の表紙 (1566 の版)

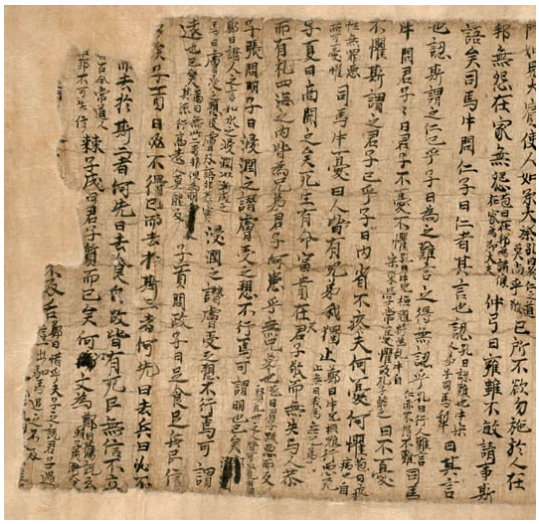


図 14　(14) 中国の莫高窟で発見された『論語』の断片。

る。だがよく考えると、公理の妥当性について疑問が浮かんでくる。

前述した通り、数学において公理とは自明であるもしくは極めて確からしい必要がある [1]。しかし、倫理学においては、その規範的命題 (功利の原理、定言命法、『エチカ』の公理など) が自明と考えられるということはあり得ないように思われる。なぜなら、倫理的意識というのは人間の脳によって生み出されるものであり、そこには価値観の違いの存在あるからである。これは、ある規範的命題に対して、ある人が「正しい」と思い、別の人が「間違っている」と思うような状況を見つけるという簡単な実験によって証明することが可能であると。(残念ながらそのような実験を見つけることはできなかったが、個人的な経験をしたことはある。)

また、物理学においては、公理 i.e. 法則というものは、帰納的に導き出されるものである [6]。ただし一般的には、機能的に導き出された物理法則全てが公理と考えられる訳ではない [9][16]。たとえば、古典力学において公理的に用いられる Newton の方程式

$$m\boldsymbol{a} = m\frac{\mathrm{d}\boldsymbol{v}}{\mathrm{d}t} = m\frac{\mathrm{d}^2\boldsymbol{r}}{\mathrm{d}t^2} = \frac{\mathrm{d}\boldsymbol{p}}{\mathrm{d}t} = \boldsymbol{F}$$

は、原理的には Einstein の相対性理論において、慣性の法則

$$\sum \boldsymbol{F} = 0 \iff \frac{\mathrm{d}\boldsymbol{v}}{\mathrm{d}t} = 0$$

を仮定したときに成り立つものであり、相対性理論を公理としたときの定理であると言える [16]。物理学では現在の世界は、素粒子の 4 つの基本相互作用によって記述できると考えられており、多くの物理学者が、それらを統一的に記述する' 万物の理論' を発見しようとしている [16]。これは、量子力学と相対性理論を定理とするようなものである必要があると考えられている [16]。つまり、' 万物の理論' を公理とすれば、そこから素粒子の運動、原子の運動、物質物体の運動、生物の運動、脳の運動というように、現実的な計算はともかく、原理的に全ての事象が記述できるということである [16]。このように考えると、数学において一般的に広く用いられる公理と' 万物の理論' 以外の全ての法則は、定理として演繹帰納両方の理論的裏付けを必要とするように思われる。

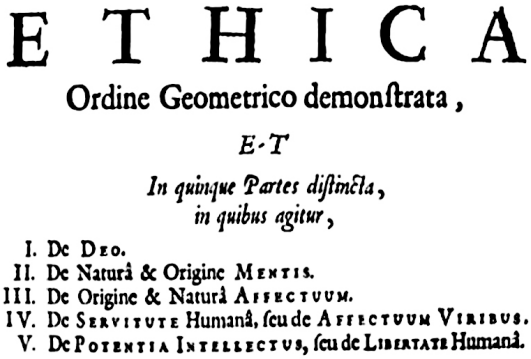
しかし、Bentham、Kant、De-Spinoza の提唱した倫理法則のいずれも、脳科学や心理学などの原理的には素粒子から物理学の裏付けが可能な実験科学を土台とする演繹の結果ではなく [31][39][46]、単に個人の主観的な「正しさ」からの帰納の結果にとどまっているように思われる。(なお、いずれも多数の人物からの支持を得ていることから、ある程度の帰納的妥当性は持っている可能性もあるが、これに関しては認知科学において、他人の意見を受け取った際の自分の意見の変化についての研究から思考する必要があると思われる。)

たとえば、Bentham の功利の原理 [29]

個人 A が行動 X を行うことは道徳的に正しい。$:\iff$ A が可能な行動の中で X が最も人々の幸福量を増加させる。

について考えてみると、そもそも、人がある行動を正しいと思った際に、脳などにおいてどのような物理現象が起こっているのかがわからないと、『正しさ』についての妥当な定義ができないと思われる。残念ながら、人が「正しさ」を感じる際、自分や他人の幸福量が増加しているとその人が思っているということを科学的に主張する論文は見つけることができなかったため、Bentham の主張が正しいということに科学的妥当性をことは見つけることはできなかった。

また、仮に、人が「正しさ」を感じる際、自分や他人の幸福量が増加しているとその人が思っているということが正しいとしても、前述した通り Bentham の提唱した幸福量の計算についての疑問が残る。これは、幸福量がどのように定義されるかの問題に直結していると思われる。(個人的には快楽物質の物質量とその分布によって定義できると予想している。)



ETHICA

Ordine Geometrico demonſtrata,

ET

In quinque Partes diſtincta,
in quibus agitur,

I. De Deo.
II. De Naturâ & Origine Mentis.
III. De Origine & Naturâ Affectuum.
IV. De Servitute Humanâ, ſeu de Affectuum Viribus.
V. De Potentia Intellectus, ſeu de Libertate Humanâ.

図 15　(15)『エチカ』の表紙

このように、規範倫理学において公理的方法を用いることは、その公理が科学的に妥当性を持たせられることによってはじめて有用になるように思う。

5　結論

前述した通り、規範倫理学における公理は、科学的妥当性を持ち、物理学的な定理となるようなものである必要があると思われる。具体的には、脳科学や心理学において道徳的な正しさに関する研究を行い、そこから、「正しさ」の定義を演繹すると同時に、そこから得られる倫理法則が一般的にどのような人であっても成り立つかどうかを文化人類学的な方法などで帰納し、それが妥当であるかを確認することによって、絶対的な倫理法則を発見できるのではないかと思う。

6　反省

今回の論文における反省点として、以下の 2 つが挙げられると思う。

1 つ目は、功利主義の総評を詳しくし過ぎた点である。持論の説明に功利主義を用いようと考えていたため、反対意見も含めて詳しく書いたが、持論よりもボリュームが多くなってしまい、明らかに書きすぎたと思う。

2 つ目は、引用や図が見にくい点である。これは LaTeX の仕様によるものであるが、恐らく少し勉強すればより見やすくできると思う。

今後再び論文を書く際には、ボリュームと見やすさに気をつけて書きたい。

参考文献

[1] Oxford University Press. 'Axiom'. *Oxford English Dictionary*, 1989.

[2] 中村幸四郎. 『原論』 の解説. ユークリッド原論, 1971, 491-492.

[3] 中根美知代. 19 世紀の解析学における 「厳密化革命」 とは何か. 科学基礎論研究, 2007, 35.1: 21-28.

[4] WHITEHEAD, Alfred North; RUSSELL, Bertrand. *Principia Mathematica*. 1910.

[5] BOURBAKI, Nicolas. *Éléments de mathématique*. Paris: Hermann, 1958.

[6] 上野義夫. 物理学における理論の構成. 科学基礎論研究, 1976, 13.1: 27-31.

[7] HALMOS, Paul Richard.; SUPPES, Patrick. *Naive Set Theory*. 1960.

[8] PEANO, Giuseppe. Arithmetices principia, nova methodo exposita. 1889.

[9] 清水明. 熱力学の基礎. 2007.

[10] A. Lande: Handb. d. Phys. Bd. IX(1926)282.

[11] C. Caratheodory: Berl. Berichte (1924)12.

[12] G. Reichenbach: Axiomatization of the The-ory of Relativity (1969).

[13] P. Suppes: Pacific J. Math. 4 (1954) 563.

[14] M. Bunge: Foundations of Physics (1967).

[15] RIEMANN, Georg Friedrich Bernhard. Ueber die Anzahl der Primzahlen unter einer gegebenen Grösse. *Monatsberichte der Berliner Akademie*, 1859, 1-10.

[16] AL-YABANI, Muslim. *What I Think about Science*. 2015

[17] RAYMOND, Kenneth William. *General organic and biological chemistry: an integrated approach* (3rd ed.). Wiley, 2010. p. 186.

[18] FRIEDMAN, Michael. Explanation and scientific understanding. *The Journal of Philosophy*, 1974, 71.1: 5-19.

[19] BARNES, Eric. Explaining brute facts. *PSA: Proceedings of the Biennial Meeting of the Philosophy of Science Association*. Philosophy of Science Association, 1994. p. 61-68.

[20] FAHRBACH, Ludwig. Understanding brute facts. *Synthese*, 2005, 145.3: 449-466.

[21] 乗立雄輝. 哲学会公募論文 根拠なく受け入れねばならない事実について. 哲学雑誌, 2006, 121.793: 139-159.

[22] AL-KHALILI, Jim. The first ‘true scientist’. *Accessed on January*, 2009, 30: 2013.

[23] DIMMOCK, Mark; FISHER, Andrew. *Ethics for A-level*. Open Book Publishers, 2017.

[24] 奥野克巳. 倫理の起源. 日本文化人類学会研究大会発表要旨集, 2008, 2008.0: 257-257.

[25] 藤沢令夫. ギリシア哲学と現代: 世界観のありかた. 岩波書店, 1980.

[26] ROSENTHAL, Erwin Isak Jakob. *Political thought in medieval Islam: an introductory outline*. CUP Archive, 1958.

[27] 嶋田襄平. ローゼンタール著 『中世イスラムの政治思想』. 東洋学報, 1961, 44.1: 142-146.

[28] 工藤庸子. ヨーロッパ文明批判序説: 植民地・共和国・オリエンタリズム. 2003. PhD Thesis. 東京大学.

[29] AL-YABANI, Muslim. *What I Think about Ethics*. 2017

[30] 北村行伸. ミクロ計量経済学入門. 2006.

[31] BENTHAM, Jeremy. *An Introduction to the Principles of Morals and Legislation*. London: Athlone,

1789.

[32] PRIESTLEY, Joseph. *Essay on the First Principles of Government*, 1768.

[33] WILLIAMS, Bernard. Jim and the Indians. *Ethics*. Oxford University Press, 1994. p. 339–345

[34] MILL, John Stuart. *Utilitarianism*. 1861.

[35] BENTHAM, Jeremy. *The rationale of reward*. John and HL Hunt, 1825.

[36] SIDGWICK, Henry. *The methods of ethics*. Hackett Publishing, 1981.

[37] HARE, Richard Mervyn. *Essays in ethical theory*. Oxford University Press, 1993.

[38] SINGER, Peter. *Practical ethics*. Cambridge university press, 2011.

[39] KANT, Immanuel. *Grundlegung zur Metaphysik der Sitten*. 1785

[40] 蔵田伸雄. 定言命法と規則功利主義. 1995.

[41] 松井富美男. カント倫理学の研究: 義務論体系としての 『道徳形而上学』 の再解釈. 2003. PhD Thesis. 広島大学.

[42] 蔵田伸雄. 義務論としてのカント倫理学: 功利主義との対比. 1995.

[43] 内山勝利. プラトン 「国家」: 逆説のユートピア. 岩波書店, 2013.

[44] 荻野弘之. 善の類比と目的の秩序–「ニコマコス倫理学」 1096b26-29. 東京大学教養学部人文科学科紀要, 1985, 83: p85-103.

[45] IVANHOE, Philip J. *Ethics in the Confucian tradition: The thought of Mengzi and Wang Yangming*. Hackett Publishing, 2002.

[46] DE-SPINOZA, Benedictus. *Ethica: ordine geometrico demonstrata*. 1677.

[47] 上野修. スピノザの世界. 講談社, 2005.